

散歩ガイドマップ

羽村駅から拝島駅

羽村駅から拝島駅まで約6.5キロ

まいまいず井戸(東京都指定史跡)

まいまいずとは、かたつむりのことで、井戸に向かって降りる通路の形がこれに似ているため名づけられた。鎌倉時代の創建と推定されている。井戸掘り技術の未発達時代に、掘りにくい砂礫層地帯に深い井戸を設けるため、このような形態をとったとされる。昭和35年頃まで使用された。

地表面での直径約16m、底面の直径約5m、深さ約4.3m、スリバチ状の窪地(くぼち)の中央に直径約1.2m、深さ5.9mの掘り井戸がある。地表面からは周壁を約2周して井戸に達する。

薬師堂・宗禅寺

堂橋の北側、急坂の途中に、天正11年(1583)から川崎一本木堂といわれた薬師堂があった。上水の建設や道路の拡張に伴い5度も移転し。昭和28年4月に宗禅寺(市内・川崎二)の境内に移築された。堂橋の名はこの堂に由来する。医王山・宗禅寺はあきる野市の広徳寺を本寺とする臨済宗建長寺派の寺。元和元年(1615)川崎村(現在羽村市の一部)村民により堂坂下の多摩川沿岸に建立された。

上水開削工事のため境内の一部が上水敷地となり、また、延宝2年(1674)洪水の氾濫にもあった。このため元禄8年(1695)、約400m東、新奥多摩街道沿いの現在地に移転した。



宗禅薬師堂

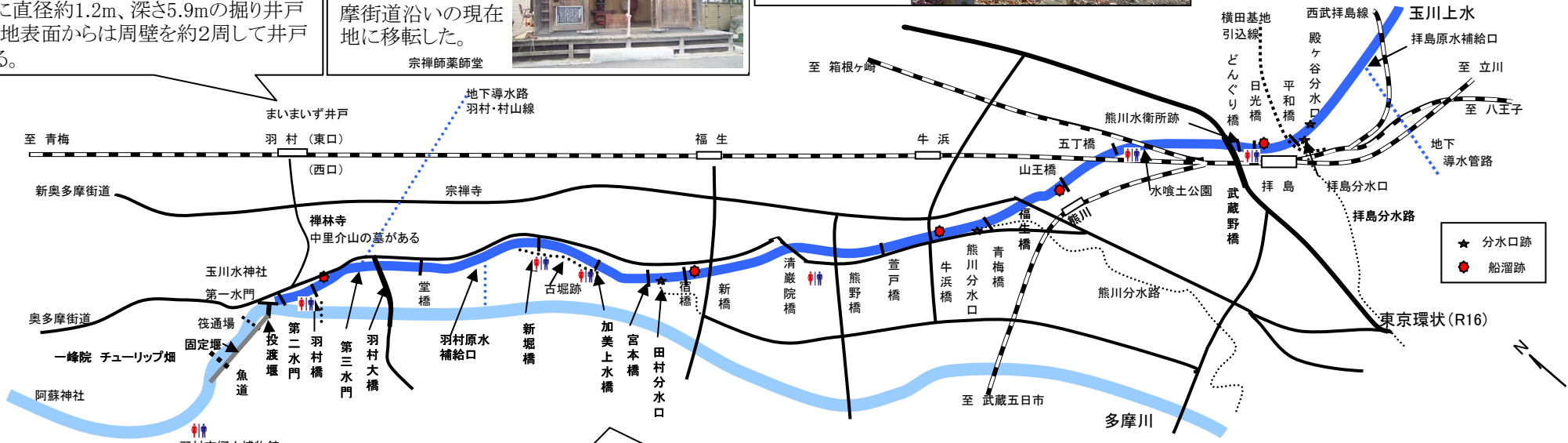
水喰土(みずくらいど)公園

武蔵野橋の上流、玉川上水沿いの右岸とJR青梅線との間にある公園で、福生市が設置。一説によれば上水開削時、流した水がこの付近で全て地中に吸い込まれ、工事に「失敗した」といわれ、その後この付近の地名が「水喰土」、「水喰戸」などと呼ばれたといわれている。

公園内にはこの、「失敗した」とされる「玉川上水開削工事跡」が福生市指定史跡として残されている。(右写真)



旧熊川水衛所・現どんぐり橋付近



羽村市郷土博物館

取水堰の上流、多摩川右岸にある。館内には上水の歴史や役割などの解説、江戸期や現代の実物大水門模型、江戸期の羽村堰再現模型などが展示されている。

他に羽村の歴史、作家中里介山関係の展示、屋外に旧下田家住宅(国指定重要有形民俗文化財)なども復原されている。

古堀跡

新堀橋のやや上流から宮本橋上流付近までは、玉川上水開設当初の堀は今よりも南側の多摩川本流に添って掘られていた。しかし、度重なる洪水により堤防の流失や決壊に見舞われた。そこで元文5年(1740)にこの区間約337間(約600m)の水路を、従来の位置からやや北側へと掘り替えた。

旧堀はこのとき掘りあげた土砂で埋められたが、一部残った旧堀跡が福生市指定史跡に指定され、付近一帯は福生加美上水公園となっている。

田村分水・田村酒造

慶應3年(1867)に玉川上水から呑水用として当初僅か5寸坪の分水(水溜井戸)が、田村家専用の邸内分水として許可された。その後明治8年には16寸坪に増量された。

田村家は代々この地の名主を勤めた旧家である。9代目田村勘次郎の代に井戸を掘り当て、あまりの水のよさにこの井戸を「嘉泉」と名付け、酒造りを創めたとされる。文政5年(1822)の創業。

戦後、近くに田用水の設楽分水取水口(閉鎖中)が造られ、この田村分水と一つになるので、現在合わせて福生分水とよばれる。

熊川分水

熊川分水は明治23年(1890)に完成した新しい分水。熊川村(当時)村民の飲用、灌漑、水車動力などの多目的用水として作られた。

この用水の建設は、明治6年に石川弥八郎が、自邸内酒造のための動力源を確保する目的で始めた分水獲得の運動がきっかけ。

このため総額1万5百余円の分水建設費用のうち、4千余円を石川氏が負担した。その他に製糸業を営む森田浪吉、森田八重二郎が各々2千7百余円、6百30余円を負担し、見返りに分水の占有使用や水車設置の特権を得た。